

単元名 幼児の生活と家族

配当時間 11 時間

- 単元の目標 (1) 幼児の発達と生活の特徴と遊びの意義を理解し、幼児と関わることができる。
 (2) 幼児とのよりよい関わり方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして問題を解決する力を身に付けることができる。
 (3) 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、幼児の生活と家族について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。

標準的な展開例

15290302_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 自分の幼い頃を振り返り、幼い頃の夢、エピソードをまとめる。 ★自分の幼い頃を振り返ろう。 ○自分の幼児期を思い出し、幼いころの夢、エピソードなどをまとめる。</p> <p>2 幼児の体の発達の特徴を知る。 ★幼児の体の発達を知ろう。 ○幼児の体の発達について考える。 ・身体の発達 ・運動機能 ・生理的機能</p> <p>3 幼児の心の発達の特徴を知る。 ★幼児の心の発達を知ろう。 ○幼児の心の発達について考える。 ・言葉の発達 ・認知の発達 ・情緒の発達 ・社会性の発達</p> <p>4 幼児の1日の生活を知る。 ★幼児の1日の生活を知ろう。 ○幼児の1日の生活を自分たちの生活と比較することで、幼児の特徴を理解する。 ○幼児の観察をする計画を立てる。</p> <p>5 支えられて身に付ける生活習慣について知る。 ★幼児の生活習慣を知ろう。 ○幼児の生活習慣がどのように身に付いていくか考えよう ・基本的生活習慣 ・社会的生活習慣 ○幼児の成長を支える家族の役割を考える。</p>	<p>・幼い頃好きだった物などをまとめさせたり、インタビューや写真、ビデオなどを手がかりにしたりして振り返ることができるようにする。 ・幼児期を振り返らせることで、家族やそれに関わる人々に支えられてきたことにも気付かせる。 ・生徒のプライバシーには十分配慮する。 【評】自分の幼い頃を振り返り、家族の役割について考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・身体の発達や運動機能、生理的機能の発達の概要とそれを支えている生活の重要性について分かるようにする。 ・体の運動機能の発達には、一般的な方向や順序があるとともに個人差があることに気付かせる。 【評】幼児の身体の発達を調べる活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>・言葉、認知、情緒の発達の概要とそれを支えている生活の重要性について分かるようにする。 ・心の発達には、年齢や生活体験によって個人差があることに気付かせる。 ・心の発達には家族や身近な人への信頼関係を形成することが大切であることに気付かせる 【評】幼児の心の発達の特徴や、それを支える家族の役割をまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・幼児と中学生の1日の生活を比較させて、幼児の特徴に気付かせる。 【評】幼児の発達と生活の特徴を考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・幼児のいる場所を考えたり、観察の方法を考えたりさせる。 【評】幼児の観察について、計画を立てる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・基本的生活習慣については、生活の自立を目指し、幼児の心身の発達に応じて身に付けさせる必要があることを理解させる。 【評】幼児の発達と生活の特徴について考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・生活習慣の習得については、幼児の心身の発達に応じて、周囲の大人が適切に関わり、身に付けさせる必要があることに気付かせる。 【評】家族の役割や、幼児の発達段階に応じた関わり方を考える活動を通して、「思考・判</p>

6 幼児の生活と遊びについて知る。

★幼児の遊びについて知ろう。

○幼児の生活やいろいろな遊びを観察し、遊びで育つ力について考える。

○遊び道具や遊び場所について調べ、遊び道具の役割や遊ぶ環境について考える。

○遊び道具の製作計画を立てる。

7～8 幼児の遊びを豊かにする、おもちゃを製作する。

★幼児のおもちゃを作ろう。

○遊び道具の製作をする。

○幼児に合った接し方や遊びを工夫し、幼児と触れ合う方法を考える。

9～10 幼児との関わり方の工夫について考え、幼児との触れ合い活動をする。

★幼児と触れ合おう。

○幼児と関わるときの注意点を思い出す。

○幼児と触れ合う。

○触れ合い活動を振り返り、幼児との関わり方について学んだことをまとめ、発表する。

11 子どもにとっての家族について考える。

★子どもを育てる環境としての家族の役割を考えよう。

○家族の立場になって言葉を考える。

○子どもが育つ環境としての家族の役割を考える。

断・表現」を評価する。

- ・幼児にとっての遊びは生活そのものであり、身体の発達や運動機能、言語、情緒、社会性などの発達を促していることが分かるようにする。
- ・幼児期に適切で十分な遊びを経験することが子どもの成長にとって重要であることに気付かせる。
- ・発達段階や子どもによって、遊びの種類や遊び方、友達との関わり方などが異なる特徴をもっていることに気付かせる。
- ・幼児の心身の発達を踏まえ、幼児が興味をもって楽しく遊べる道具になるよう工夫させる

・安全性、丈夫さ、発達段階、興味・関心、創造性、大きさなどについても考えさせる。

【評】遊び道具の製作計画を立てる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・発達段階に応じたおもちゃを製作させる。

【評】幼児の発達段階に応じた遊び道具を製作する活動を通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

・幼児と触れ合うことの良さに気付くなど、幼児との関わりが積極的に行えるようにする。

【評】幼児との関わり方について課題の解決策を構想する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・身なり、服装、言葉遣い、安全など幼児と関わる時に注意することを確認する。

・うまく幼児と関われない生徒がいれば、教師が間に入り、きっかけをつくるように支援する。

・幼児と触れ合う活動が困難な場合には、視聴覚教材やロールプレイングなどを活用するとよい。

【評】幼児と触れ合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・幼児との触れ合い活動を振り返り、幼児との関わり方について話し合ったり、訪問時の様子をレポートにまとめたりすることで、幼児への理解を深めるようにさせる。

【評】触れ合い活動を評価・改善し、考察したことをまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

・生活の中で、親やそれに代わる人が愛情をもって接し、幼児との基本的な信頼関係を形成することが大切であることに気付かせる。

・教科書P. 250の例を取り上げるとよい。

・幼児の立場、大人の立場、どちらの言葉も考えさせる。

【評】家族の立場から幼児との関わり方について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・信頼する家族または、それに代わる人との温かな関わりの中で育てることが大切であると気付かせる。

【評】家族の役割を考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】